

河上肇記念会報

No. 14

1983. 5. 30

〒542

大阪市南区長堀橋筋一―三（丸善石油ビル）
 千代田商事内 河上肇記念会
 電話 (〇六) 二五二―三六九六
 振替口座 大阪 三一三一九五

獄中獨語

河上 肇

あゝ主君とて一検定された私が能くまて
 かゝる者として生れしやうとすれば、私をたゞ
 獄中生活のみが送れる。再び自由を得よう
 とすれば、早かれ遅かれ、私は主君とての
 望みを自ら放棄せねばならぬ。

かういふことは、あんなに今かりやうなことを

目次

故大橋隆憲先生追悼	
大橋隆憲さんを偲ぶ	大門英太郎 (2)
大橋隆憲についての二、三の思い出	内海庫一郎 (2)
王学文先生からのお礼状	(5)
図書紹介・河上文献日より	(6)
会員通信	(9)
当番日誌	(13)
入獄五〇周年（表紙解説）(4)、前号表紙写真説明の訂正(7)、 河上肇記念会収支報告書(12)	



故大橋隆憲先生追悼

内海 庫一郎

哀辞 一九八三年三月一日 本会の世話人 事務局顧問 京都大学名

誉教授 大橋隆憲氏 胃がんのため逝去されました 世寿七十一才 例年総会のしめくりに「来年も 来々年もあいましょう」と述べられ 本会の発展に尽力されました

謹んで ここに心から哀悼の意を表します

大橋隆憲さんを偲ぶ

大 門 英太郎

昨年の法然院の総会で大橋さんに閉会の辞をのべて頂いたのが、お声を聞く最後になった。その時にも例年総会で頒けて頂く河上先生墓域の梅の実を漬けた梅干の紹介があった。大橋さんはその梅干と、これも例年の慣しになっている山下孝次郎氏寄贈の河上先生好物の進々堂のあんパンを携えて、翌日、病後の軀を駆つく、辺鄙不案内な城陽市郊外の障害者福祉センターに療養中の安井功さんを見舞って、総会の報告をされ、安井さん感激さしておられる。このことをお葬式の日、安井さんから聞いて、私も感激しました。まことに、凡人の及ばない心配りの行き届いた、心やさしいお人であった。

永年に亘って河上肇記念会のために尽して下さった言葉に尽せぬ心こまやかな貢献を会員一同と共に感謝し、御冥福を祈る。

大橋隆憲についての二、三の思い出

(1)昭和十六年末の事件

昭和十六年の十二月十五日頃であったであろうか、当時、満洲の建国大学にいた筆者は半年間の内地留学ということで妻子といっしょに、京都へ帰ってきた。当時、伏見にあった家内の実家の二階に一晚泊って、翌朝、窓の戸をあけてみたら、門の前に刑事らしい男が立っていたが、はいって来なかった。

家内の家が手狭なもので、母に頼って向いの老夫婦の家の二階を勉強部屋に借りてもらったら、借りたとたん、伏見署の刑事と称する男が、その老夫婦の家をおとづれ、「お前たちは内海とどういう関係か」としつこくたづねて、老人たちをおそれさせた。京大へゆき、蟻川虎三教授の三階の研究室へ行ったら、階段と研究室の入口のところに、顔見知りの川端署の刑事が立っていた。

その時分は、もう大橋隆憲も上杉正一郎も検挙されて帰ってきていたが蟻川研究室は唯ならぬ空気で、蟻川は大橋と上杉を今後どうするか、で頭をなやましていた。私にも相談されたが、上杉は警察で蟻川が革新派か、ときかれて、それを否認してきたが、大橋は、それを認める供述をした、という噂であった。ちょうどその時、大橋には満鉄調査部から貰いがかかっていた。事情のよくわからぬ私は大橋に、「先生が何か非常に君のことをおこっているが、よくあやまって、満鉄へ行かしてもらへ」といったが、問題はそういうことではなく、予想されていた京大教授グループの検挙の見透しとからめて、大橋や上杉をどう処遇するのが

一番適當か、ということだったようである。

当時の京都府特高課長の奥さんは、蛭川律子夫人の東京三高女の後輩で、律子夫人とは同窓生としてのかなり親密なつきあいがあったようである。そのルートから律子夫人は、警察側の動きについて、ある程度の情報をひき出していたようであった。それによると、逮捕すべき京大の教授のリストのようなものが既に用意されており、その中には河上肇の弟子たち、蛭川はもちろん、石川興二、谷口吉彦、松岡孝児、柴田敬というような人々がふくまれているとのことであった。大橋や上杉を残しておいては、京大教授グループ事件の口火になる危険がある、というのが蛭川の判断であった。上杉は大連市役所の平吏員として「満洲流刑」になり、戦争が終るまで、係長にさえならなかった。一方大橋は、蛭川研究室から追放され、暫くして市川の市長をしていた（新婚早々の）奥さんのお父さんの世話で、日本鋼管の計理課へはいつて、計理の修業をした。（数字をいじるのをいとわぬ大橋の研究姿勢と彼の見事なソロバンのうまさはこの時の苦労のたまものといえる）彼は計理第二係長として敗戦を迎えた。「敗戦の数日前、いつもやってくる刑事が、日本が降服を申し出ているという噂が流れているが、貴方の戦局の見透しはどうか」と聞きやがるので、これは危ないな、と思って、その日から家に帰らず、ほかを泊りあるいていた。うっかりつかまったら、敗戦のドサクサで、殺されるかもしれない、と思ったからだ」と、後で大橋が筆者にはなしたことがある。

戦後、大橋は新たに結成された日本鋼管の労働組合の委員長になり、産別会議の十月斗争のときに、日本鋼管を首になって失業した。増山太助のかいた「産別会議 十月斗争」という本には、たしか日本鋼管の組合委員長としての大橋の名が出てきたと記憶するのだが、いまちょっと本を開いてみたが見当らない。あるいはほかの本だったかもしれない。

(2) 京大就職の頃

筆者はその頃、当時、稲葉秀三が経営していた「国民経済研究協会」にいた木村太郎の世話で、統計委員会事務局の課長補佐をしていた。当時、この委員会の委員長は大内兵衛で、事務局長は、美濃部亮吉であった。その統計委員会の仕事で、京都と奈良へ出張したのだが、その帰途、一晚、そのとき、京大裏の百万遍の境内の親類のうちに間借りしていた岡部利良先輩のうちに厄介になった。岡部さんは、シベリアから日本へ帰ってくると間もなく、京大に迎えられ、会計学の助教授になっていた。翌朝、岡部さんといっしょに、家を出て、寺の境内を歩いていたとき、「内海君、実は今日、蛭川先生の跡を誰にするのか、を決める教授会がある。私は君を推そうと思うがどうだろうか」といわれてびっくりしたが「それはいけませんよ。蛭川研究室は昭和十六年の事件のとき、上杉と大橋を追放している。それをこの際復帰させるのが筋でしょう。上杉は戦後また通産省でレッド・パージをくっているから、まづいいでしょう。この際、大橋を帰すべきでしょう。労作も大橋が一番多い。それに大橋は病弱で、いつ死ぬかもわからない。せめて京大助教授にして死なせてやりましょう。大橋が死んだら、上杉をだせばよい」。それで話しが決まり、堀江英一たちも大橋を推薦したので、大橋京大復帰の件はスラスラと教授会をとった。京大での大橋は必ずしも楽しい気分ではなかった。送ったわけではなかったようで、筆者は大橋から何度か、京大を辞めて、寺の和尚をやるか、と思うというはなしをきかされた。「京大を辞めたら、大橋はイキイキした顔付きになった」というのが、専らの評判であったが、とにかく、京大で大橋は、蛭川統計学を立派に発展させ、更にすぐれた階級理論を構築し、沢山の著書と論文を書きのこした。われわれ研究者仲間にとって、大橋の理論的業績をこれから落付いて再検討してみる、相当大がかりな仕事だ宿題として残されている、という訳

である。

大橋の京大就職が決ったとき、筆者は自分のことのように喜んで、早速市川にすんでいた大橋のうちへお祝いにつけた。もう夕方であったが、まだ食事はすんでいない、と思って、途中のどこかで牛肉をかって行ったが、大橋家の食事はすんでいた。「君はまだ食べていないのか」と聞かれて、「そうだ」と答えたら、大橋夫人が食事の支度をしてくれた。大橋はおつきあいに一切か二切れ、牛肉をつまんだが、私はよろこんで、夢中ではなしながら、持って行った牛肉を一人で全部平げてしまったらしい。そのことで後で大橋夫人から、何度か笑われた。

やがて大橋は東山七条の智積院の門番の部屋へ引越してへ大橋は、新潟の寺のうまれで、その寺は壇家のいない地主寺だったそうである。寺のつながりが何度か大橋の生活の危機を救ったようである。行った。筆者はその時大橋が臨時講師をやっていた東京工大の経営工学教室の経営工学の講師を、統計委員会の事務官の儘で引きついた。その時の教室出身が磯部喜一教授で、そのつながりで磯部さんに武蔵大学に連れてきてもらった、という訳である。磯部さんは清水焼といったような伝統産業の専門家で、マルクス学派ではないが、学生時代は経済原論と学説史を河上肇先生からきいており、今も当時のノートを持っておられ、それが杉原四郎あたりの河上肇研究に役立った筈である。

大橋は京大の教官であつたときも、同時に智積院の「役僧」で、たしか宗教法人の監査役をしていたはずである。位は中僧都だった、ときいていた。彼は東大で印度哲学をやっており、サンスクリットとパーリ語が読めた。彼の印度哲学の教養が、京大時代の統計学の研究——それはまづ第一に認識論、研究方法論一般の方向に蠅川統計学を拡充し、位置づけて行ったものだった——の深い基礎になっていたことは疑いない。戦後「推計学」とやらが「唯物弁証法的な統計学」などといわれてさ

がれたとき、大橋は、その学説史的な位置づけを与えて、推計学なるものの正体を明らかにした。いわゆる「八〇〇〇万人」誌の論文がそれであるが、深い哲学的教養なしには、ああいう仕事はできなかったであろう。

表紙解説

「入獄五〇周年」

五〇年前の昭和八年一月一二日、東京中野の画家椎名剛美方の二階で河上は検挙された。河上の身柄は、中野警察署から豊多摩刑務所に、同年六月二七日に市ヶ谷へ移された。七月、入獄最初に書いた「獄中独語」(表紙写真)は夫人に送られたものであるが、前日に新聞発表された。詳細は「自叙伝」および夫人の「留守日記」をご参照下さい(新聞は七月七日の「東京朝日」である)。

一切實際運動と 河上博士絶縁す

夫人の許に書き送った
「獄中独語」に表明



決意までには
随分思ひ悩んだ
吾夫人自筆で送る

マルクス主義を 學徒として信ず

獄中も信念動搖
なく

獄中 苦痛を避けて 樂に死にたい

老境に動く本能
獨語

王学文先生からのお礼状

昨秋の法然院での総会で、王学文先生への寄書をいたしました。その返事が柘植さんのところへ来ました。中国語のため読めぬというので、小生のところへ転送、早速一海先生に訳をお願いします。ここに流麗達意の訳文を得ましたのでお目にかけます。なお文中の王先生の疑問には柘植さんを通じて、本会の会報、会則、小史などを送りました。

(大門生)

尊敬する 柘植 秀臣 先生
丸岡 文江 夫人

お手紙ならびに寄せ書きの色紙、二月十二日に拝受いたしました。その日はあたかも中国の伝統的な旧正月の大晦日にあたり、祝日の楽しい気分をもちたててくれました。

先生ならびに奥様の、父に対するご好意と御配慮には、私ども深く感謝いたしました。

先生は今もご入院中とのことですが、お体はしだいに快方に向かわれていると知り、父も私どもとても嬉しく存じました。どうか専心ご療養いたされたく、気候が温暖になり桜の花が咲くころには、一そうご恢復の御事と確信いたして居ります。

先生にはご病臥手にもかかりませず、京都で行なわれた河上肇先生記念会での講演を生沼曹喜先生にご依頼の上、父とも連絡をとるようお申し出になった由、父は先生のご厚情に感謝いたしております。ただ、具体的にどのような「連絡」とればよいものか、わかりかねます。河上肇先生記念会が河上肇先生を崇敬し記念するための団体であることは

存じておりますが、責任者がどなたか、いかなる任務をもつのか、どのような諸活動を行なってきたのかを存じませんので、どうぞお知らせください。

また、生沼曹喜先生が講演の中で、一海先生（一海知義先生でしょうか？）がまもなく父のことを紹介する講演（の内容）を発表されると申されたそうですが、まだ拝見しておりません。父に関する一海先生の講演を載せた会報を拝見できるよう父が望んでおりますので、一部お送りいただければ幸いに存じます。

父は退院して家に帰ってからすでに一年余になり、体は少しずつよくなりつつあります。今年にはや米寿の年に達しましたが、精神状態は良好で、記憶、思索、分析、判断はともによろしく、ただ臥床久しきに及んだため、毎日ベッドより下りる運動をして鍛錬いたしておるようなことにて、どうかご放念くださいますようお願い申し上げます。

先生ならびに奥様より、生沼曹喜先生、一海先生および会で寄せ書きをしていただいた諸兄姉に、父からの衷心よりの感謝の気持をお伝えください。

署名者の中に鈴木洵子さんという方がおられますが、河上肇先生の次女芳子さんのお嬢さんではないかと父が申しております。父は京都大学にいたころ、芳子さんにお目にかかったことがございます。（一九）五〇年代に父が北京大学で教えていたとき、芳子さんもまた北京大学におられるとききましたが、きいてまもなく芳子さんは亡くなられたと知り、深い悲しみにおそわれました。

さいごに先生のご健康の一日も早いご恢復をお祈り申し上げます。

一九八三年二月二五日

敬 具

王 義 使

圖書紹介

『河上肇「貧乏物語」の世界』 塩田庄兵衛編 法律文化社 一九八三年一月 一、五〇〇円。



本書は昨年の総会で編者塩田先生より紹介、刊行予告されたものである（本誌前号、塩田庄兵衛「音読会とその産物」参照）。

河上肇全集 岩波書店（刊行順本誌前号のつづき）

第六巻 解題 杉原四郎

経済と人生、経済学研究、金ト信用ト物価

全集月報9

一九八二年九月刊

沖繩近代史のなかの河上肇（高良倉吉）、『金ト信用ト物価』前後（小野一一郎）、河上会結成事情（小柳津恒）

第一〇巻 解題 山之内靖

近世経済思想史論、大正七年一〇月～九年三月の論説

全集月報10

河上肇と日本近代哲学（船山信一）、河上の変成の時期（和田洋

一）、河上会結成事情及びその後の活動（続）（小柳津恒）
第八巻 解題 住谷一彦 一月刊

祖国を顧みて、経済教科書、大正四年六月～五年一二月の論説

全集月報11

『十年練磨の「精神」河上の遊学（大島清）、河上肇の愛国心（清水靖久）、「価値人類犠牲説」の論争（大門一樹）、資料紹介 額田豊「人体の所要熱量の問題」

第四巻 解題 大野英二

二月刊

『日本経済新誌』論説はか（明治四〇年四月～四二年一二月）

全集月報12

河上肇研究の思い出（ゲイル・バーンスタイン、清水靖久訳）、『国民経済』をめぐる河上肇と福田徳三（宮島英昭）、無我苑との訣別（柏木隆法）、資料紹介 河上法学士に答ふ（『東京経済雑誌』社説）

第一一巻 解題 山之内靖

一九八三年一月刊

唯物史観研究、大正九年四月～一一年五月の論説

全集月報13

河上肇とロバート・オウエン（土方直史）、『意図せざる結果』と『意図されざる結果』（大林信治）、河上肇の書物収集について（細川元雄）

第七巻 解題 杉原四郎

三月刊

経済原論、大正元年八月～四年五月の論説

全集月報14

パリの藤村と河上肇（十川信介）、『Utility』の訳語をめぐる河上・福田論争に寄せて（二）（早坂忠）、晩年の河上肇先生へ（奈良本辰也）

第二二卷 解題 寿岳文章・一海知義

三月刊

獄中日記

全集月報15

昭和十年代と河上肇の読者たち(村瀬興雄)、河上肇と私(橋本峰雄)、「Unity」の訳語をめぐる河上・福田論争に寄せて(

二)(早坂忠)、資料紹介 獄中での『自叙伝』素稿

第一八巻 解題 松尾尊公允

四月刊

大衆に訴ふ、産業合理化とは何か?第二貧乏物語、昭和五年一月〜五月の論説

全集月報16

河上訳稿の行くえ(岩村登志夫)、官憲抑圧下における河上肇(上)(荻野富士夫)、影ながら河上先生に会った想い出(佐藤克己)

第五巻 解題 住谷一彦

五月刊

人類原始ノ生活、時勢之変、明治四三年一月〜四五年七月の論説

全集月刊17

冲繩と河上肇(玉野井芳郎)、河上肇の宗教的体験(作出啓一)、官憲抑圧下における河上肇(下)(荻野富士夫)

前号 (No.13) 表紙写真説明の訂正

脇村先生ご所蔵の画帖より、翰墨会で筆をとる河上像を「津田青楓筆」と紹介しましたが、編集子の勝手な思い込みで、近年「異色の水墨画家」として注目された近藤浩一路(一八八四—一九六二)が描いたものでした。訂正のうえ、深くおわびいたします。

河上文献だより

「情報センター生、今春の好天に恵まれ、野に遊びすぎ、今回も「文獻リスト」を整理できず、深くおわびいたします。埋草二題、センター生の読書メモより」

河上「新しき村」評と現代

私は職業柄、自分としては余り興味をもっていないが編集者、校正者の著書に目を通すことにしている。昨年暮に、つんどくした西島九州男「校正夜話」(日本エディタースクール出版部、一九八二年一月刊)を正月休みにと読みはじめた。この道(職業としての校正)で「神様」(？)的存在の西島氏が若かりし頃「新しき村」に参加された。その話のはじめに「しかし河上肇博士などは、これは「新しき村」非常にいい意図ではあるが、経済的には資本主義の圧迫を受けて必ず失敗すると予言し、有島武郎さんでさえ好意ある悲観論をとえられたのです……」と述べられている。「校正夜話」を中座して、私は早速河上の「新しき村」評を求めた。現行岩波の全集第一〇巻に収録された「『新しき村』の計画に就て」が西島氏の読まれた論説であろう。「この論文は大正八年一月一日刊の『政治学経済学論叢』(同志社大学)誌に発表されたものであり、まさか当時東京の会社勤めの西島氏の目にふれるわけではないと思ったが、全集解題に大正九年四月刊の『改訂社会問題管見』に再録されたところ、これで納得。」さて河上の「新しき村」評は、まず武者小路の「新しき村」の企てを紹介し、その計画される村(共産村)が成功するかを類似的歴史の実例に問い、失敗したロバート・オウエンの事業と成功した米国のアマナ社団を紹介、検討し、不十分な計画でなされる社会的実験に中止を、そして新しき村＝共産村の宗教団体化に成功を述べ

たものであった。

現代——戦後日本に「共産村」の事例は寡聞ながらも、私は一、二を知っている。だが河上が設問した「……果して其が社会全体の改革に対し、之が創設者の希望しつつあるが如き、又は希望しつつありと推察せらるるが如き、又は予期しつつありと想像せらるるが如き効果を呈するであらう乎……」の指摘に、私の描いていた過疎村のささやかな「新しき村」企ても正月の夢で終らせようか。

古書二冊

二、三年前から私は、河上が京都大学に在職した当時の同僚（法、経済部のスタッフ）、門下生の随筆類を古書店で集めることにしている。ここにとりあげる佐々木惣一『道草記』（甲鳥書林新社、昭和三十二年六月刊）は古書店で手に入れたものではない。本書は大学の図書館で借り、読んだものである。河上の同僚であり、親友であった憲法学者の佐々木が「折にふれて、専門的考察をはなれて、いわば時々の随筆とでもいうべきもの」を集め、これを編んだものが本書である。

佐々木が河上について書いた「思い出あれこれ」、「河上教授辞職のこと」、「噫河上肇君（詩）」、「きちょうめんな河上君」の四編が本書に収められ、さらに「遙かに大山都夫君へ」、「松下村塾の半日」の二編には河上にふれた箇所がある。私には再読のものもあるが、六編いづれも——天野文献誌を引くことによって——昭和二二年に刊行された『疎林』（甲文社）に収録されている。『疎林』は『道草記』の初本ともいうべきものではないかと、佐々木の在職した京大法学部の図書室に本書を求めた。運よく本書を手にして「はしがき」を読む。

「……文集の名をそれに載せるもの定まらぬ前に考えるのはおかしいことであるが、一応『雑草』としていた。ところが、その後の或る日、

故河上肇君の文集として『雑草集』と題するものが発行せられている、という広告を新聞か雑誌かで見た。『集』の字の有る無しで、多少感じのちがいはあるにはあるけれども『雑草』が『雑草集』に似ているのはあまりおもしろくないので、私は『雑草』をすててしまった。『雑草集』の名は河上君が自分でつけたのか、出版社のつけたのか、しらぬけれども、それが私の親友としていた河上君の文集であることは、妙な因縁といえはいえよう。『雑草』にかえて何と名づけようか、別に考えるというほどでもなく、『疎林』というのがあたまたの中にうかんだ……」

（「はしがき」にもあたたかい友情を感じる）。

ある日某出版社の編集子から神戸正雄（京大教授で、河上の同僚）のメキシコ訪問の存否を問われる。神戸は明治三七〇年と大正二一三年とにヨーロッパへ留学している。いろいろ調べてみたが、欧米とあるがアメリカへ行った記録がない。最近古書店で求めた神戸の『対楓庵雑記』（朝日新聞社、昭和二十三年刊）に簡単な「自歴」のあったことを思い出し、早速、その一節を読むと、確かにアメリカに渡ったことが記されていた。

この本の目次に前の所有者が青鉛筆でチェックした「互助の精神」という一節がある。ついでに読みはじめた。読みだし、興奮する。内容は戦前の京大経済学部史の一コマである。興味深い点は、河上さん追放への神戸さんの自己弁解とも読みとれるところがあったが、神戸の近代合理主義を単的に示した「互助の精神」がしめされており、私には収穫のあった読みものとなった。

会 員 通 信

一、

。神経麻痺腕上らずにお手あがり ありがたや形見の品を肩にかけ
（末川博先生、書斎で愛用の膝かけ）今日河上肇先生のご命日に参れ
ず、末川先生のご命日にとがなばつてます。（京都市、安井功）

。もう八六才、耳も眼も足もだめです。たぶんこれが最後でしょう。で
も月一回、塩田さんの音読会には出ています。（京都市、渡辺美登）

。ご苦労さま。息子と二人分送ります。息子和泉宏之介住所変更しまし
た。大学を卒業して、京都より神奈川県に就職しました。高校教師と
して小田原にいますが、多分息子の方にこの書類、届いてないと思い
私が立替えますので、今後は下記にお送り下さい。生涯百年記念によ
る仮名簿が本名簿となって、この会が長く続きますよう祈ります。多
くの人々にマルクス主義に対する眼を開いてくださった河上先生の功
績を忘れないように——。（秋田県横手市、和泉とく）

。名簿と会報とをいただきました。昨年の総会には出席いたしましたの
で楽しく会報を拝見しました。なかでも稲田先生が九六才で亡くなら
れた由、会にはいつも顔を出されてお元気なのに驚いていました。会
費の未納がありましたらお知らせ下さい。（大阪市、小林寛）

。会報の脳村先生のご講演の中で『社会問題研究』が大正八年一月に創
刊せられたとのお話がある。『貧乏物語』を読んで河上宗の信者にな
った二三才の若者であった私は早速、創刊号より直接弘文堂から送本
していただいて、ずーっと読んで来た。今はそれを秘蔵していること
を思い出してなつかしく思いました。八五。（徳島市、三村文一）

。いつの総会にも出席出来ず残念です。健康も次第にとりもどしつつあ
りますので、次回あたりは出席出来ることを、祈っております。（東
京都大田区、岩崎諒）

。私は先生を尊敬する一人ですが別封で送りました大内兵衛先生と松田
道雄先生を師としています。その松田先生は社会正義の実現で多忙
のことと拝察しますが、お名前を拝見して嬉しき限りです。逝去され
し大内兵衛先生が法然院で河上肇先生の墓碑の前で在られし時のこと。
（名古屋市、山口幸一）

。永い間、総会などにも出ていませんし、会員資格もないものと、理解
していましたが、名簿に登載しておりましたので、とり敢えず一年分
送金します。お世話になり、ご苦労深謝します。（京都府大山崎町、
木村誠一）

。会費送ります。今年の墓前祭はぜひ参りたく楽しみにしています。（
兵庫県神戸市、戸崎増太郎）

。先日は会員名簿をお送り下さりありがとうございます。法然院を訪ね墓参。先生
方の講演を楽しみに致しておりましたのに多忙で出席出来ず失礼致し
ました。去年は無欠で河上肇「自叙伝」音読会を終え、引き続き参加
させて頂いております。会費が大変おくれまして申し訳ございません。
心ばかりの募金させて頂きました。（大阪市東住吉区、福永照子）

。河上肇記念会名簿五二年一月現在一頁の年額三〇〇〇円をご送付申
上げます。四月から新振替用紙になりますのでその番号大阪の次の〇
か一か不明につき三月中に送ります。私は昭和四年入学七年卒ですか
ら直接には河上肇先生を知りませんが隣県人性がわかるつもりです。

（広島市、青盛和雄）

。河上先生の警談に接したのは昭和二年、佐賀公会堂で開催された労働
党の演説会の会場においてであります。昭和八年三月私も中野警察

署に検挙されましたが、ほんの直前まで先生も同署に留置されていて、その人格を看守にまで慕われていたことを知り、それ以来、私淑している次第です。(犬山市、中島邦蔵)

。送金が遅くなりました。長女が今春より立命館にお世話になりますので大変楽しみにしております。河上先生の法然院におまいりが実現出来そうです。危険な世相にある祖国を先生は今どんな想いでいることでしょうか。若い私達が少しでも先生の理想を語り伝えるために頑張らねばと、最近つくづく考えております。共に頑張しましょう。(山口県、防府市、上田隆)

。小生、河上肇について一定の関心を持ち、いささか彼についての研究を進めてみたいと思っている者です。塩田庄兵衛編「河上肇『貧乏物語』の世界」(法律文化社)にて、貴会のことを知りました。もし、お願い出来ますことならば、貴会についての詳細を知らせていただき、ますような資料・パンフレットなどがございましたら、お送りいただけますでしょうか。(千葉県市川市、佐藤進)

。立派な会報13号と会員名簿拝受。お骨折り厚く御礼申し上げます。表記金額些少ですが、会費用に充てて下さい。会の一層のご発展を祈り上げます。(兵庫県、西宮市、石井公代)

。会報、たのしく読ませていただいています。(京都府、宇治市、島弘)
。ご苦勞様です。ご健康にご留意の上、ご活躍ください。(新潟県、白根市、片桐恵吾)

。ますますのご発展をのぞみます。(大阪市、福島区、栗山四郎)
。事務局の方々のいつも変らぬお仕事ぶりに頭がさがります。本当にご苦勞でした。(北海道北見市、名苗充穂)

三

。やっと会費の額等がわかり安心致しました。(大阪府、吹田市、八木

隆)

。会報ひっくり返してみても、会費はいくらなのか一寸わからない。こういうのは事務的にまずいんじゃないかね。あてずっぽに三〇〇円送りました。よろしくどうぞ。(神奈川県、横浜市、田中文蔵)

。年会費を会報のドコカに明示して下さい。之がわからないので出しそびれます。(大阪府豊中市、江崎四十男)

。会報、送っていただきありがとうございます。百年祭に寄付したのですが。今後も会報等いただけるよう、とりあえず送ります。下記のように住所変更しています。名簿の訂正お願いします。(兵庫県、尼崎市、松本有一)

。会費二年分送金します。何年度分まで入金してあるのかわかりませんが、払込済分に続けて、納付したことにして下さい。充実した会報、名簿を手にし、事務局の皆様にお礼申し上げます。(青森市、京藤英一郎)

。会報いただきました。寸志ですがおさめ下さい。(京都市、鮎子由泰生)

。会費送ります。なお、未納分ありましたらご一報下さい。また送ります。(東京都杉並区、渡辺真澄)

。滞納もあるように思いますが、わかりませんので、一期分だけ送りました。よろしく。事務局の方、ご苦勞様です。(三重、上野市、沢田嘉夫)

。おそくなりましたが、河上肇記念会、会費三〇〇円と、ほかに七〇〇〇円おくります。なにかの足しになればと思います。(守山市、美濃部和夫)

。河上肇先生記念会会費、金参千円也、送金します。宜しくお願い致します。(宗垣幸一 九〇才)

。失業中、しかもカンパも一四件にのぼり、会員でありながら、こんな額で申訳ありません。また、来月送ります。(大阪市、東成区、三輪三雄)

。会費二年分送金します。何年度の分になるのか記憶にありませんが。(東京都世田谷区、上杉拾彦)

。83年度分会費を送りました。もし82年度分でしたら、改めて83年度分を送り直しますから、お手数でもご一報下さい。(東京都、板橋区、武田正二)

。二年分。(長崎県諫早市、関山直太郎)

。83年度会費、送金いたします。なお、西川勉氏の募金にも応募します。別途(大阪府、吹田市、山下肇)

。80年分までしか会費お送りしていなかったように思います。818283の三ヶ月分まとめてお送り致しますのでよろしく。(大阪府、枚方市、小西輝夫)

。河上肇記念会会費、取敢えず二年分送付します。(東京都、小西市、藤井満洲男)

。8283年度会費として。(京都府、向日市、壽岳文章)

。ご送金について失念していたので、延引申訳ありません。(京都府、城陽市、磯野維石)

。おそうになりました。ほんの僅かなのですが会費などにあてて下さい。

失礼ですがよろしくおねがいします。(千葉県、柏市、山口嘉吉)

。年会費に会運営不足金のカンパとして一万円送ります。(神奈川県横浜、佐藤敬治)

。会費送付致します。遅くなりましたがご査収下さい。記念会の運営についていろいろご配慮、感謝致します。(京都市、山崎利一)

三

。名簿で小生の名が「中西勲」となっていました。訂正下さい。「中南」です。よろしく。また会報ですが一号一十二号が欠号しています。よろしければ参考にしたいと思いますので、送っていただけませんか。実費は請求して頂ければ支払います。今後ともよろしく。(兵庫県、神戸市、中南勲)

。お送り頂いた名簿中、五頁右欄、糸園辰雄氏に※印がありますが、福岡市博多区千代五ノ一四に『シャルマン 八二八』を入れて発送すれば届くと存じますので、お知らせ申上げます。先日会費振込みしました。お元気で頑張って下さい。(水野茂)

。会員名簿中、氏名に誤字があり、住所が変っています。誤、藤田栄夫正、藤田栄史。新住所 448 刈谷市井ヶ谷町広沢一、公務員宿舍一〇四〇四。木田融男の住所に※の印がついていますが、現住所は次の通りです。567 茨木市豊原町九ノ七〇八。(愛知県刈谷市、藤田栄史)

。名簿中、小生の名前。正しくは與一(略して与一)です。昨秋、縁あって法然院に参りました。紅葉がきれいでした。平和と健康を願うこと切なるものがあります。(福島市、相沢与一)

。河上肇記念会の会員名簿をお送り頂き、大変ありがとうございます。当方の姓名に誤字がありますので訂正して下さい。坂部有伸↓坂部有伸。よろしく。(京都市、阪部有伸)

。私の名前は足立千古(ちふる)です。千石ではありません。(兵庫県芦屋市、足立千古)

。假名簿の中の私の氏名が誤っています。誤、黒瀬正昭。正、黒瀬正昭。(宮城県仙台市、黒瀬正昭)

。会員名簿の私の住所、福岡県は誤り。福島県です。よろしく。(福島県、南会津郡館岩村、鈴木元夫)

。名簿いただきましたが、小生の名前「カ」の部分になっていますが、「チ」の部分に訂正下さい。（千葉県流山市、茅根伸）

。会員名簿では郵便番号が●155で違っています。●151に訂正して下さい。（東京、渋谷、亀山幸三）

。名簿に記載されている住所は勤務先なのです。この表記の住所が自宅ですからよろしく。（山口県、下関市、木村隆弘）

。住所が仙台市水の森二一〇一六から仙台市水の森一〇九二二に変わりました。（沼崎義治）

。拝啓 昨年二月に転居致しましたので郵便物等は左記にお願い致します。●141東京都品川区北品川五〇一八二二〇二 安藤良雄

。住所、表記のように変更したのでよろしく。昨年度分払ったかどうかさだかありませんが、今回は八三年度として下さい。昨年度分未納の場合は請求、お願いします。（京都府、宇治市、石川本雄）

。住所を変更しました。（鹿児島市、児嶋正男）

。現住所が表記のように変わりました。

●065札幌市東区北一条東七丁目公団北一条団地一三一 木村和範

。会員（仮）名簿を見ていましたら、榎原信一、柳田謙十郎の両氏が亡くなったことに気付きました。（西宮市、杉原四郎）

。会員中、河本正次（京、上賀茂、土門町七八）一九七九、九、三〇日死去。山田幸次（京、東山、宝蔵町三五〇四）一九八一、一〇、一二死去。京都旧友クラブの人でもあるので、ご通知まで。（宇治市、横山博）

四

収支報告書（57・4・1～58・3・31）

収入の部		支出の部	
費目	金額	費目	金額
前期より繰越	25,789	—	—
会費（総会費含む）	1,294,000	印刷費	210,780
寄附金	139,000	通信費	366,390
拓本代	2,000	総会費	211,740
雑収入	1,000	交際費	31,000
受取利息	2,827	手数料	470
借入金入金	151,860	借入金返済	211,800
—	—	次期へ繰越	584,296
計	1,616,476	計	1,616,476

財産目録 58・3・31現在

現金預金	584,296
借入金	151,860

きます。今後は印刷物をご送付なきようお願い致します。（京都市、石田良三郎）

。以前、私の母が河上先生にお世話になりました、よく存じて居りますが、私は存じませんので会より引かせて頂きたいと思っています。いつもお盆には河上先生のお墓参りに母を車に乗せて行っております。（京都市、平井義二、はる八三才）

。大変おそくなりました。八二年分会費としてお納めします。之にて退会させて頂きます。（兵庫県宝塚市、宇野卯之助）

。このたび、高令（八六才）のため退会したいと思いますので、よろしくお取計らい下さい。お礼かたがたお届けまで。（尼崎市、大泉宗次）

当 番 日 誌

◎会員の方々が会費を送って下さったり、寄付をしていただいたお蔭で会報No14が出せました。借金をしないで胸を張ってお配り出来る久々の会報です。事務局の一員として、しあわせ感一杯です。夏には総会案内号が待っている。桜が咲いて、業桜となって、さみだれに濡れてあやめもわからない財政事情も、さんさんたる太陽の下で輝くことでしょう。そうとして、読むに値する会報、出すに値する会報へと努めて行きたい。

◎会員通信を原稿用紙に清書するのは当番野郎にとって楽しい時間です。「儀礼上の言葉にしても、はめ過ぎだな」と汗顔することもしばしばですが、愚直にだいたいを転記収録しています。

◎名簿をご覧になって、ミス等の指摘を多くいただいています。最も失礼なのは名簿から全く抜け落ちていた方もありました。ふかくお詫び申し上げます。旧名簿↓カードへの転記↓印刷原稿↓校正↓印刷、と各段階ごとに誤りの起る工程があり、誤りの累積結果が名簿となっています。目下、カードと印刷名簿と旧名簿との三者のチェックが進行中ですが、お気付き次第、すべてご教示願います。一応、振込票と名簿とのチェックも行っております。振込票のご住所などは省略しないで、書いて下さい。次回、名簿印刷の際、訂正配布のためにはいつもメーソンのナンスしていただければなりませんので……。会費をいただいている状況はこのカードでわかります。

◎会員の方々の転居やご逝去があります。しばらく会費の納入がとだえていても、会報をお届けするようにしており、財政の負担になっております。お知り合いの方の移転や、ご逝去がありましたら、重複になっても結構です。どうか事務局へ教えて下さい。

◎田中求刑を財界主脳はどう見るか？朝日新聞によれば、ただ独りわが

川勝伝さんが田中の退陣を求めておられた。企業を率いる財界人にとって並大抵の勇氣ではこういうことは言えない筈である。この辺のむずかしさが、財界人は学者や私のような庶民とは異なるように思われる。だが議員の身分保障は体制派でない者のとりでだと思つて、モロハの剣である辞職勧告などしない方がよいと私は考える。先日の茶飲み話にも、わが大門氏は戦前、戦中、いわゆる高貴の方が大阪に来るたびに、予防検束されていたそうである。そういった時代がまた来た時、若い人々はどうかと思うと胸が痛む。

◎河上肇全集はほぼ正確に配本が進み（さすが／＼）十四冊目がとどいた。配本速度が読書速度を上廻って、わが零細企業の書棚に未読の巻がたまって行く。わが経営においてこの一事だけが豊かな感じへと誘ってくれる。岩波書店に対しひそかに感謝の思いを寄せている。一方、会の運営会のたびごとに、細川会報編集委員より（どうせお前にはその程度しか出来そうもないから）全集の読後感想つづりかたを書けと責められる。さすが京都生れ、京育ちの編集委員はカッコの部分は決して口には出さぬが、ひがみのせいか、それがクローズ・アップされて伝って来る。会員の方々、どうか当番ボーイを助けるために、全集のどの巻でも、読後批評や感想をお寄せ下さい。

◎会員で清水寺管長だった大西良慶師が大往生をとげられ、新聞各紙は大きく取上げたので、言葉を書き換えることなく黙悼を捧げよう。本年度の会費も一月二四日にいただいていた。法然院の総会では、ここ二三年、河上夫妻の墓石のかたわらの梅の実が梅干として配られた。いろんな方の奉仕の産物で、最後に大橋先生の手で銀色の箔に包まれ、当日出席の皆様への、ささやかで珍しい土産となった。その大橋先生が亡くなられたので、今年の総会の梅干はどうなることだろう。

（大久保 記）

入会のすすめ

河上肇記念会は、関西を中心として正式に発足して満一〇年になります。毎年秋には河上の墓前に集まり、法然院にて法要を営み、会の総会を開いております。会員の資格は会則にある通り、河上先生に学び、先生を知ろうとする人びとです。是非ご入会をおすすめします。会員の皆さんには友人、知人にこの会をご紹介下さい。

河上肇記念会会則

- 一、この会は河上肇記念会と称し、大阪市（または京都市）に事務所を置く。
- 二、この会は、河上肇先生の人格と、その業績を讃え、これを広く、かつ永く伝えるための研究ならびに事業を行う。
- 三、河上肇先生を敬慕し、先生に学び、先生を知ろうとする人びとを会員とし、いかなる資格ならびに政治的立場を問わない。
- 四、毎年一回総会を京都で開催、その他随時集会および事業を行う。
- 五、この会の会友および世話人は別の定めによって選び、総会において承認を与える。
- 六、世話人代表はこの会を代表し、世話人中の事務局担当が事務を執行する。
- 七、この会の経費は、会費ならびに寄付金をもってあてる。会費は年額三〇〇〇円とする。
- 八、この会則の改廃は総会の議決による。

~~~~~

## 編集後記

会の財政は当番氏にまかせ、もっぱら本誌の「季刊」刊行をめざし、本号を四月配布と意気込んでいましたが、二か月もおくれてしまいました。深くおわび申し上げます。次号は今秋の総会案内号として九月初旬におとどける予定で、ひきつづき編集作業をはじめています。会員諸氏のご投稿を切望いたします。



## 京都(きょう)に「煙」あり

1965年 創刊 只今44号

戦前日本プロレタリア文化運動の生き残り10名(68~78才)が出している異色の同人誌。埋れた青春像の発掘を柱に詩・歌・小説・エッセイもあり、各地、各界、各層からの便りを「声」欄に収めているのも特色

A5判120頁 頒価500円 定200円

「煙」 同 人 社

京都市中京区西ノ京藤ノ木町11の24

児 玉 誠 方

電話 京都(075) 811-7646番

振替 京都 2-15653番